

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第672号 2026年2月8日

カトリックにおける「多様性の中の一致」

主任司祭 ミカエル鈴木 真



わたしは2020年に横浜雙葉学園の理事長職を拝命しました。

幼きイエス会を母体とする「雙葉」は、国内に6つの姉妹校があります。横浜、四谷、田園調布、静岡、福岡、それに横浜のサンモール・インターナショナル・スクールです。年に一度、「姉妹校理事長会」があり、理事長たちが各姉妹校を回ります。コロナ禍はできなかったようですが、2024年に復活しました。各姉妹校が持ち回りで会場となり、その会場校の校舎や授業を見学し、また各姉妹校間の情報共有をするのですが、わたしは2024年から、いくつかの姉妹校を見学する中で、それぞれの姉妹校の持つ特徴や、学習の仕方の独自性に驚かされています。幼きイエス会という共通の母体を持ち、また同じ校訓を持つ学校なのに、ここまで違いがあるのだな…と感じさせられました。

だからこそ、姉妹校との連携は、さまざまな発見や刺激があり、お互いに支え合って歩んでいます。姉妹校同士のいろいろな交流もあり、昨年は「幼きイエス会姉妹校・教員フランス研修」が久々に行われ、全国の雙葉姉妹校から多くの先生方が「雙葉の源流をたどる旅」をされました。こうしたカトリック学校のつながりは、まさにカトリックならではのものだのと今更のように気付かされると共に、「多

様性の中の一致」という、第2バチカン公会議がもたらした教会観がある、とも感じました。

1962年から開催され、カトリック教会の近代化ともなった「第2バチカン公会議」では、世界に広がる教会のそれぞれの違いや特徴を重要視した上で「キリストによる一致」という、「多様性の中の一致」の教会観を打ち出しました。その際に引用されたのが「1コリント12:12～『一つの体、多くの部分』」です。多くの異なる部分によって、「キリストの体」が形づくられている。すべて違っていて、すべて大切。また各部分は互いに影響し合っている。よく言われる「みんな違っていい、みんないい」とか、またラグビーでも言われる「一人はみんなのために、みんなは一人のために」に通じるこの箇所は、わたしも大好きなところです。これこそ、まさに福音！と思いますが、カトリックは、さまざまなところで、そして、特にカトリック学校という存在にも、この「多様性の中の一致」が実践されていることを実感しています。

教会には、いろいろな人がいて、みんな大切、それでいい。ただ、だからこそ難しい点も多々あるわけですが、「多様性の中の一致」こそが神さまの求められている共同体の姿であることをいつも心に刻みながら、これからも教会と学校に関わっていきたい、と思います。